

## I - 3

## 岩宿遺跡から何が見つかったのだろうか？

岩宿遺跡からは、相沢忠洋さんが赤土（関東ローム層）の崖からあるいはその崩れた土から31点の石器を発見しました。1949・50（昭和24・25）年の発掘調査では石器209点が発見されています。最近では、岩宿遺跡の整備のための発掘調査によって、240点ほどの石器が発見されました。それらは、より深い茶褐色のローム層から発見された約3万年前の岩宿Ⅰ石器文化、ローム層の上のほうから発見された約2万年前の岩宿Ⅱ石器文化と、ローム層の最も上の部分から発見された約1万8千年前の岩宿Ⅲ石器文化という少なくとも3つの時期があることがわかりました。岩宿遺跡では、数千年の年代差をもって3回以上、同じ場所に人々が住んでいたこととなります。



●岩宿Ⅰ石器文化の石器（約3万年前）  
（提供：明治大学博物館）

楕円形の大きな石器（左上2点）は石斧で、一方は刃先が磨かれている。その他、狩りに使ったと考えられるナイフ形石器（左下3点）がある。



●岩宿Ⅲ石器文化の石器  
（約1.8万年前）  
（提供：明治大学博物館）

皮なめしの道具といわれる搔器が発見された。相沢さんが発見した石槍もこの時期だと考えられている。



●岩宿Ⅱ石器文化の石器  
（約2万年前）  
（提供：明治大学博物館）

狩りに使ったナイフ形石器（上左端をのぞく上・中列）などの石器がある。Ⅰ石器文化より石器が小さくなっていることがわかる。